

プロジェクト開始前に起きていたこと

Bangladesh では、貧困層ほど、栄養にしめる炭水化物の割合が高いと言われます。

野菜、豆、魚、肉、果物などの価格は高騰し、米と塩でお腹をいっぱいになっている人が多いようです。



上の写真の男性の昼飯は米と塩だけ。下の写真の男性は米とジャガイモだけ



農村部なら家の土地で野菜を作ることができます。ただ、せっかく始めてもヤギに芽を食べられてしまったりして、失敗することも多いようです。

各地域には、農業局の普及員がいます。地方行政機関のユニオンから農業局に依頼をすれば、地域の普及員に家庭菜園研修をやってもらうことができます。

野菜の作り方の座学研修してもらい、その後の実践でも助言がもらえます。

しかし、政府機関の研修や他のサービスを簡単に活用できることを、住民もユニオンも知らないことが多いです。他方、政府機関は研修枠があっても、人を集められずに、苦勞していることが多いようです。本事業は、潜在的なニーズを持つ住民と、行政の様々なサービスをマッチングして、健康的で豊かな暮らしが可能な地域づくりを推進していきます。



農業局の普及員による家庭菜園研修。食卓にたくさんの野菜が並ぶのが楽しみです

事業では、コミュニティが地域内外のリソースを活用して、文化習慣（食行動・運動習慣）・環境汚染（水質汚染・室内大気汚染）など健康の社会的決定要因を克服し、NCD リスクに対して強い地域を作ることを目指します。